

特集によせて——初代会長講演全文を再録

「指揮者を指揮する人、即所謂將に將たる人を要する場合は、土木に於て最も多しとす。……」

氣概にあふれたこの呼びが發せられてから半世紀が過ぎ去った。この間、土木界をめぐる内外の情勢は激しく変わった。しかし、土木学会の初代会長として古市公威が、雄々しくも指し示したこの進路は、いつの時代においても味わうべき滋味を有している。たとえその具体的な適応条件は、時代時代の事情に即して解決すべきであろうし、またその表現や時代色に必ずしも賛成しない向きもあるが、古市精神の純粹さと気魄は、時代を越えて、われわれ土木技術者に深い感銘を与える。

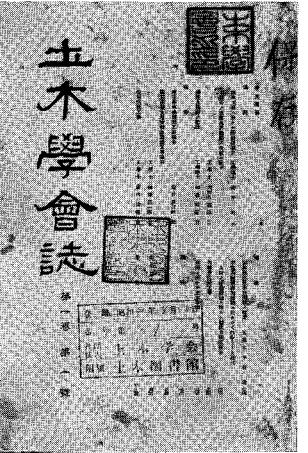
われわれが土木技術について考える場合、さらには土木技術者の進路について思いを潜める場合、この会長講演は郷愁にも似た香りをわれわれ後輩の身辺にただよわせてくれる。今回の特集に際して、多くの執筆者が期せずしてこの講演を重視し、好んで引用しているのも決して偶然ではなかろう。

1915年1月(大正4年)、古市公威は還暦をちょうど終えたところであった。彼はフランスへの留学後、大学で内務省で、教育者として技術者として行政官として、八面六臂の活躍をした。この会長講演は日本土木界の基礎づくりを固めた偉大なる実績を踏まえての土木哲学の発露であったといえる。

さらに忘れてはならないことは、この講演によって、彼は、土木学会の会長講演のあるべき姿をも示そうとした点である。すなわち会長たるものは、自らの貴重な体験を通して、土木界の動向を深く探り、その哲学の要旨を、土木界に向かいまた土木学会員に向かい、堂々と吐露すべきであると考え、それを学会のひとつの伝統にしようと意図し、自らその範を垂れたのである。

初代会長の純粹な精神と広い教養を偲ぶよろしく、本特集を機会に原文を再録し、会員のご参考に供する次第である。

左写真は土木学会誌第1卷第1号の表紙(土木図書館所蔵のもの)を写したものであり、下の凸版は初代会長講演全文を、土木学会誌第1卷第1号から約1/2の縮尺で転載したものである。



土木學會第一回總會會長講演

専門ノ學會ニ會長タルコトハ學者ノ最名譽トスル所ナリ今度土木學會ノ創立ニ方タ科ラスモ余カ其ノ第一回ノ會長ニ當選シタルハ余ニトリノ理由アリ三十一年ニ鐵道協會設立セラレ土木ノ一半ヲニ收容シ本會規則第二十九條ニ會長ハ一月ノ總會ニ講演ヲ爲スト規定セリ演題ニ何ノ制限ニ無キハ勿論ナルモ先例トナレキ場合ナルヲ以テ多少考フル所アリタリ前年ニ於ケル土木ノ重要事項ヲ報告シテ其ノ批評ヲ試ミル如キハ適當ナル題目ナルヘシ昨年ノ十一月三日倫敦ノいんすぢちとみ入じるいんじにあす發會ニ於テ會長ハ過去五十年間ニ於ケル歐格蘭ノ工業ノ振興及技術ノ進歩トシテ鐵道ヲ始メ港灣水道道路運河ニ就テ講述シ終ニ市街發展ノ狀態ヲ説テ結ヒタリト云フ此ノ類モ亦好題目ナリ然レトモ余ハ右等ノ例ニ依ラス土木學會ノ方針ニ就テ聊見ガ所フ述へ諸君ノ考慮ヲ煩ハサントス是今日ノ場合ニ相當シタル問題ナリト思考ス

去年六月一日有志者ノ發表シタル土木學會設立ノ意圖書ハ諸君ノ熟知スル所ナルヘシ文明ノ進歩ニ伴ヒ專門分業即所謂すべしやりゼレシノ必要ヲ感スルハ一般ノ法則ニシテ土木學會モ亦大體ニ於此ノ法則ニ依リ生レタルナリ茲ニ工學ニ關スル學會ノ方針ニ就テ聊見ガ所フ述へ諸君ノ考慮ヲ煩ハサントス是今日ノ場合ニ相當シタル問題ナリト思考ス

日本鐵道協會創立セラレントスル如キ其ノ一證ナリ

右述フル如ク本會ハ他ノ學會ト同シ専門分業ノ必要ニ依リ設立セラレタルモノナルヲ以テ自此以後本會各員ハ専門ノ研究ニ全力ヲ傾注スヘキニト勿論ナルカ茲ニ少シ議論ノ存スルアリ専門分業ノ方法及程度ハ場合ニ依リ大ヒニ取捨スヘキモノアリト云フコト是ナリ左ニ一例ヲ舉ケテ余ノ云ハント欲スル所ヲ明カニスルノ便ニ供セントス

余ハ佛國ニ留學セリ佛國ノ教育ハ大體ニ於テ總括的ナリヨ所謂いんざいくろべて。かるゑでけしんナリ就中余ノ學ヒタルニこへざるノ如キハ千八百二十九年ノ創立ニ係リ其ノ當初ニ於テ工學ハ一ナリ工業家タル者ハ其ノ全般ニ就ク知識ヲ有セナルヘカラスド宣言シ爾來此ノ主義ヲ守リテ渝ラス機械土木冶金化學ノ四専門ヲ設クリトモ學生ハ一般ニ各學科ノ講義ヲ聽テ聽聞セサルヘカラス分科ニ依リ課業ノ差別アルハ實驗設計ノ類ノミナリ此ノ制度タル學校創立ノ時代ニ在ツテハ兎モ角モ今日ニ於テハ一見無理ニシテ時勢ニ適セサルノ如シ佛國ニ於テモ反對ノ議論少カラス數年前に學校評議員ノ組織ニ一大改革ヲ加ヘタルモ是ノ點ニ就テ調査セシムル爲メナリトシテ反對論者ハ幾分か期待スル所アリタルモ今日ニ至リ猶ホ容易ニ決シ難キモアル如シ同校ノ一教授ハ日ク本校ノ卒業生ハ卒業證書ト其ニ一束ノ鍵ヲ得テ専門分業ノ文字ニ束縛セラレ如キハ大ニ戒ムヘキコトナリ殊ニ本會ノ方針ニ就ク余ハ此ノ說ヲ主張スル者ナリ

本會ノ會員ハ技師ナリ技手ニアラス將校ナリ兵卒ニアラス即指揮者ナリ故ニ第一ニ指揮者タメノ素養ナカルヘカラス而シテ工學所屬ノ各學科ノ比較ニ及ぶ者ナリ各學科ノ講義ヲ聽テ指揮者ヲ指揮スル人即所謂將タルノ者ニ限レバシニ斯ル場合ハ士木ニ就キ其ノ能力ヲ有セサルヘカラス且又土木ハ機械電氣建築ト密接ノ關係アルノミナラス其ノ他ノ學科ニ就クセ例之ハ特種船舶ノ如キ用具ニ於テ或ハせめんと鋼鐵ノ如キ用材ニ於テ不適當互に交渉スルノ必要アリ茲ニ於テカ(工學ハ一ナリ)ノ學會ノ幹部ノ幹事者ハ其ノ全般ニ就ク知識ヲ有セサルヘカラスノ宣言ニ全ク無意味ニアラスト云フアト得ヘシ而シテ又斯ク論シ來ハ工學全體ノ網羅シ而モ土木専門ノ者カ會員ノ過半數ヲ占メタル工學會ノ以テ恰ミ土木ノ專攻機關ナルカ如キ見做シ甚萬葉月ヲ送リ來リタルモ幾分カ恕スヘキ所アル如シ

本會ノ研究事項ハ之ヲ土木ニ限ラス工學全般ニ擴ムルヲ要ス只本會ノ工學會ト異ル所ハ故ニ本會ノ研究事項ハ之ヲ土木ニ限ラス工學全般ニ擴ムルヲ要ス只本會ノ工學會ト異ル所ハ

土木學會第一回總會會長講演

二

一

土木學會第一回總會會長講演

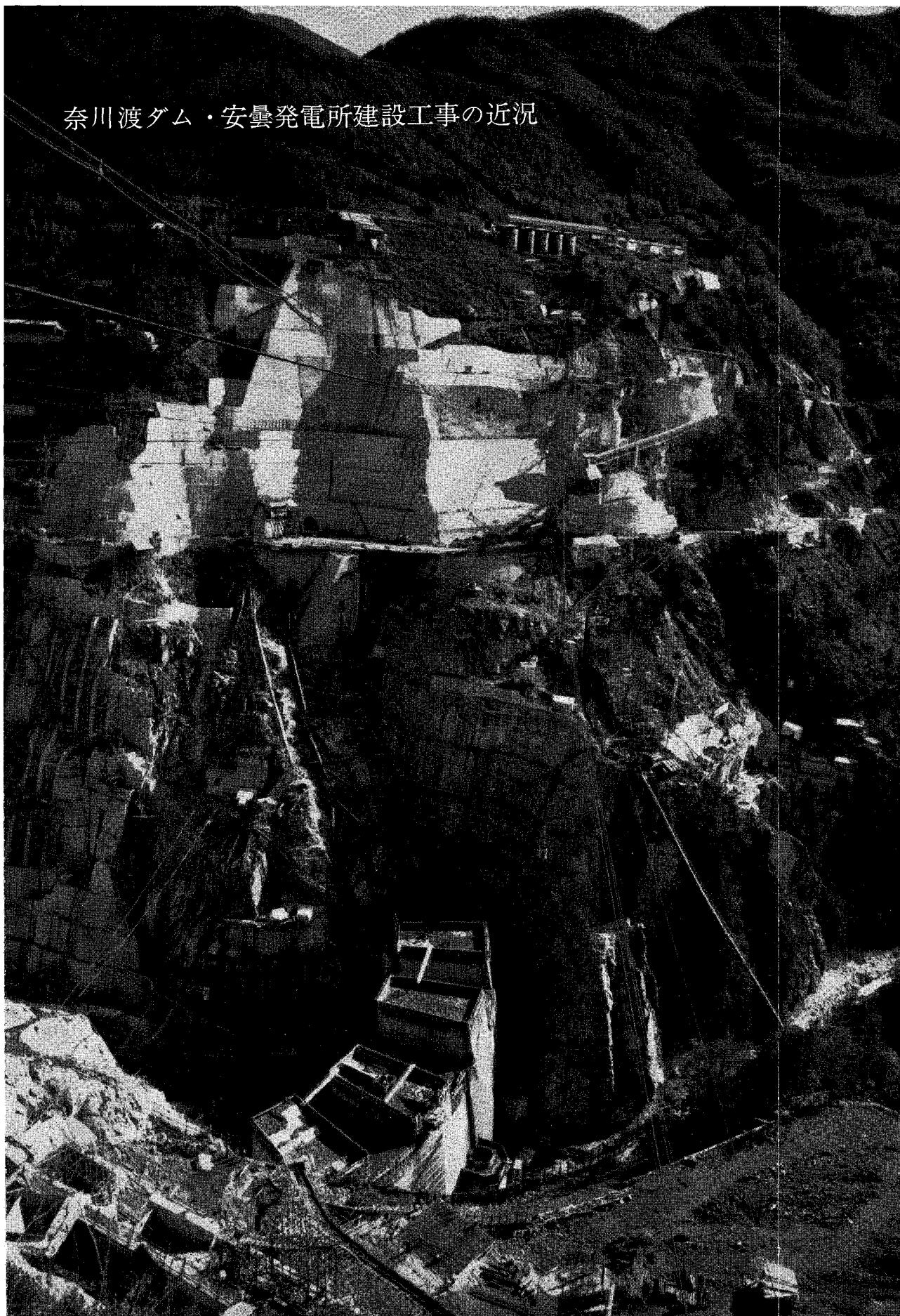
三

工學會ノ研究ハ各學科間ニ於テ輕重ナキモ本會ノ研究ハ總テ土木ニ歸着セサルヘカラス即換言スレハ本會ノ研究ハ土木ノ中心トシテ八方ニ發展スル所要ス是余カ本會ノ爲ニ主張スル所ノ専門分業ノ方法及程度ナルモノナリ

右ノ主意ハ本會ノ定義ニ於テモ其ノ一端ヲ窮フコトヲ得シ工學所屬ノ學會ノ内土木ヲ除キタル六學會ノ會員ノ資格ヲ其ノ専門ノ者ニ限レバシニ本會ノ定義四條ノ一號ニハ工學専門ト獨クテ土木工學專門トハ云ハス是土木以外ノ専門事項ヲ研究スル爲ニ他ノ専門ノ者カ會員ニナシ土木ニ關スル衛生問題ハ甚要ナリ而シテ大學ノ課程ニヤキモノハ益々本會ノ研究ヲ要求スルモノナリ是等數益アルヘケレハナリ

尙本會ノ研究事項ハ工學ノ範圍ニ止ラス現ニ工科大學ノ土木工學科ノ課程ニハ工學ニ屬セナル工藝經濟學アリ土木行政法アリ土木專門ノ者ハ人ニ接スルコト即人ト交渉スルコト最多シ右ノ課目ニ關スル研究ノ必要ヲ感スルコト切ナルモノアルヘシ又工科大學ノ課程ニ工業衛生學會スルヲ歡迎スレハナリ又他ノ専門ノ者モ其ノ専門ノ土木ニ應用スルノ意志アル者ハ本會ニアコトヲ忘レランコトヲ完

奈川渡ダム・安曇発電所建設工事の近況



長野県南安曇郡安曇村（左岸）と同奈川村（右岸）地点に建設中の奈川渡ダムは、昭和 43 年 12 月完成を目指し、鋭意工事がすすめられている。同ダムは、高さ 155 m（現在高 75 m）、堤頂幅 10 m、敷幅 35 m、堤体積 672 000 m³ の巨大なダムで、同所に併設される発電所により 623 000 kW の電力を生むこととなる。発電所関係では、昭和 44 年 6 月にダム直下の発電専用機（1, 2 号機・211 000 kW）の運転を開始、揚水兼用機 3～6 号機（412 000 kW）は、5, 6 号（206 000 kW）を和年 45 年 11 月、3, 4 号（206 000 kW）を昭和 45 年 11 月にそれぞれ運転を開始する予定である。写真一は工事現場全景、写真二は上流側のダム近景、写真三は、ダムの背面およびダム直下の 1, 2 号機発電所放水庭で、左下の方は 3～6 号の揚水兼用発電所を建設しているところである。

内容・主旨紹介

今月号の登載記事の要旨を記してあります。切り取ってパンチカードにはりつけて整理に供して下さい。

特集・土木界の動向をさぐる／総合と分化の観点から／土木学会誌編集委員会

土木学会誌第53巻第1号, pp. 11~69, 昭和43年1月 (January 1968)

科学・技術の進展は、必然的に専門の分化を招来する。時代とともに分化を重ねる各分野にあっては、結果的に総合への道は時代の要求であり、両者の間の均衡こそ明日への発展の礎石となるものと考えられる。本特集はこの間の事情に鑑み編集したもので、早急に結論を出すことを意図せず、物事に考える糸口を与えることを目的とした。特集の構成はつぎのとおりである。すなわち、米谷・藤井・末松の「われわれにとって土木技術とは何か」を最初におき、ついで誌上シンポジウム「土木界における“総合と分化”」、藤井(正)の「土木・建築技術にみる分化、分裂と総合化——その歴史的展望」、金闇の「歴史からみた分化と総合の基盤——土木学会を創設した巨人の識見と遺業——」と続き、終りに佐藤の懸賞論文第1席入選作「専門の分化と総合」を収め特集とした。

第1回土木計画学シンポジウムテキスト 第2回土木計画学シンポジウムテキスト | 頒布ご案内

昭和42年1月31日大和証券ホールで開催されました第1回土木計画学シンポジウムのテキストは、発刊と同時に売切れとなり大変ご迷惑をおかけしておりましたが、今般僅少ではありますが再版の運びとなりましたので、下記要領で頒布致します。続いて同年11月21, 22の両日銀座ガスホールで開催されました第2回土木計画学シンポジウムのテキストもあわせ発売致しますので、ご希望の方は、至急お申込み下さいますようお願い申上げます。

第1回土木計画学シンポジウムテキスト

B5判・133ページ

定価 700円(税70円)

残部約230部

委員長あいさつ

鈴木 雅次

総論

八十島 義之助

土木計画と土木技術

加納 治郎

土木計画と公共投資

米谷 栄二

土木計画と土木技術へのコメント

土木計画手法に関連して

吉川 和広

土木計画とオペレーションズリサーチ

佐佐木 純

計画基礎数理

五十嵐 日出夫

土木計画手法への反省

佐用 泰司

施工管理計画

渡辺 新三

土木計画手法に関連して

総合計画に関連して

川北 米 良

国土、地域計画

秀島 敏彦

土木計画と都市計画

井上 孝

地域に関する計画における土木計画

総合開発と社会開発に関連して

土木計画のあり方と基礎理念—水資源計画部門—

西川 喬

防災計画

石原 安雄

環境衛生計画—公害を中心として—

山本 利夫

鏡光計画論から土木計画論へ

鈴木 忠義

産業開発と社会開発に関連して

高橋 裕

交通計画に関連して

内田 一郎

地域計画と交通

長尾 義三

起終点施設計画と土木計画

毛利 正光

大都市問題と交通計画

多谷 虎男

都市鉄道計画の基礎理念

天野 光三

交通施設投資の計画体系について

小川 博三

交通計画に関連して

第2回土木計画学シンポジウムテキスト

B5判・120ページ

定価 700円(税70円)

残部約570部

第1回土木計画学シンポジウムにおける土木計画のあり方と基礎理念に関するまとめ

米谷 栄二

第I部 水資源計画

水需要量の予測と計画決定の合目的性

佐々木 和彦

河川の総合的开发利用計画

北野 章

第II部 交通計画

コンゴー共和国の鉱山品輸出増強計画

立花 文勝

道路計画

星野 哲三

港湾における計画目標の設定と標価の基準

長尾 義三

都市交通計画

新谷 洋二

地域と交通

加藤 晃

第III部 都市計画・地域計画

理論都市・地域計画への試み

毛利 正光

地域計画に関する考察

大塚 友則

都市計画・地域計画

渡部 与四郎

第IV部 土木計画の目的に関する総括討論

第V部 総括討論のまとめ

土木学会出版案内

編著者名	図書名	判型	ページ数	定価	備考
土木学会編	新潟地震震害調査報告	B 5	904	10 000	
同	建設／創造／技術(写真集)	A 4	280	3 800	彰国社刊
同	土木年鑑・1967	B 5	484	3 500	鹿島出版刊
同	土質実験指導書	B 5	65	320	データシート26枚
同	土木材料実験指導書	B 5	140	460	データシート56枚
同	水理実験指導書	B 5	38	250	データシート21枚
同	水理公式集	A 5	603	1 400	
同	土木製図基準	A 4	170	1 300	折込20葉色刷4葉
同	土木技術者のための 振動便覧	A 5	450	2 400	
同	土木技術者のための 岩盤力学	B 5	489	3 600	
同	第4回海岸工学講演集	B 5	244	300	オフセット
同	第6回海岸工学講演集	B 5	150	400	
同	第9回海岸工学講演集	B 5	162	1 000	
同	第10回海岸工学講演集	B 5	184	1 200	
同	第11回海岸工学講演集	B 5	286	1 500	
同	第12回海岸工学講演集	B 5	257	1 500	
同	第13回海岸工学講演集	B 5	319	2 200	
同	Coastal Eng. in Japan	Vol 1	B 5	147	250
	"	Vol 2	B 5	122	300
	"	Vol 3	B 5	125	500
	"	Vol 4	B 5	122	700
	"	Vol 5	B 5	160	1 200
	"	Vol 6	B 5	131	1 000
	"	Vol 7	B 5	147	1 200
	"	Vol 8	B 5	151	1 200
	"	Vol 9	B 5	171	1 500

●待望の年鑑いよいよ完成——好評発売中／鹿島出版会発行

土木年鑑

1968

土木学会土木年鑑編集委員会編集・定価 3500 円／送料学会負担

■土木建設界のすべてを系統的に鳥瞰できるわが国唯一の年鑑!!

本年鑑の5大特色



①広い視野に立った編集方針

単に土木分野全般の記述だけでなく、経済・法制・財政・企業計画・他産業との関連などを捉え、総合的な展望をも行なった編集

②斯界の権威を網羅した編集・執筆陣

土木学会がその総力を結集し、斬新緻密な構成にもとづいた各専門分野の権威による執筆

③豊富な内容、系統だった分類

各部門ごとにあらゆる事象を網羅し、精密な統計および図表を付し、詳しい解説を行なった、土木界のすべてを通覧できる唯一の年鑑

④見て楽しめるビジュアルな年鑑

新鮮な口絵写真、わかりやすい図版および解説写真を豊富に使用し、視覚的な面にも留意した編集

⑤美麗・堅牢な造本と鮮明な印刷

頻繁な使用、永年の保存にも耐えられる、厳選された資材・印刷・製本

■体裁

B5判上製函入／特織クロース装丁／口絵写真20余枚・本文中写真200余枚／本文8ボン新铸活字使用・約500頁／写真・図版・統計表多数／アート紙および真珠アルトン紙使用

■土木年鑑編集委員会委員名簿

委員長	八十島義之助	副委員長	片山祐一						
主査委員	内山諒	竹内良夫	玉村栄二	森茂					
委員	阿部泰彦	栗津清藏	岩永三樹男	大迫公克	大橋文雄	川村光雄	京坂元宇		
久保赳	杉田栄司	高野宗司	多田安夫	竹間弘	豊田栄一	林鋼太郎			
樋口芳朗	日吉三友	藤井喬	藤田圭一	藤吉三郎	増岡康治	松本繁樹			
村山幸雄	森宣制	山下博通	山田俊英	山本安一	横山浩雄				
幹事	市川芳忠	宇津橋昭八郎	成瀬輝男	南部祥一	本山翁				

●土木建設界のすべてを系統的に鳥瞰できるわが国唯一の年鑑!!

■本年鑑の構成

口絵写真

本年度における代表的な土木事業27件の写真集

論 説

“曲り角に来た建設事業”——建設技監 尾之内由紀夫

本年度までの経過の分析から明日のあるべき姿の概要を記述

展 望

1. 社会の動き 2. 経済発展計画における土木事業
3. 行政と事業 4. 建設産業の動向 5. 研究および技術水準
6. 教育および技術 7. 海外事業

工学技術および関連資料

1. 長期計画 2. 研究と技術 3. 特許・実用新案 4. 主要報告書・論文目録 5. 関連学界の動向

事 業

本年度における主要土木事業を写真・図面・諸元に解説を付して紹介

国土計画・地域計画／道路／鉄道／都市計画・土地造成／上下水道・工業用水道・水資源／治水・治山・海岸／港湾・漁港・航路標識／空港／発電施設／土地改良・干拓／防衛施設／観光・レクリエーション施設／工場施設／建築／災害復旧／海外事業／諸調査

資 料

建設事業における基本統計・資料を網羅
国土・人口／建設事業量／治水・治山・海岸／道路／鉄道／港湾・漁港／都市計画／上水道・工業用水道・下水道／災害・災害復旧／コンサルタント・測量／建設業／建設機械／建設労務／建設資材／工事価格・土地価格／一般経済／新法令解説

付 1. 国の土木系機関一覧(新設) 2. 全国土木系大学所在および教官一覧 3. 全国都道府県別主要土木事業一覧図——各事業の42年度予算と事業概要(新設)

切 取 り 線

申 入 書

東京都新宿区四谷1丁目

社団法人 土木学会刊行物頒布係行

電話 351-5130 (直通), 振替口座 東京 16828 番

■申込者名

校名または会社名

所 在 地

担 当 者 職 名

担 当 者 氏 名

(印)

書 名	部 数	送 料	合 計
土木年鑑 1968年版 定価3500円	部	本票使用分のみ 学 会 負 担	円

上記のとおり代金を添えて申込致します。

昭和 年 月 日

注: 御送金のときは本申込書を同封願います。

手続上、前金が無理の場合には、請求書類の御必要枚数を御記入の上、学会まで御申込下さい。現品に書類を添えて御送り致します。